

健康交差点

企画：日本医師会
No. 8

おふくろへの感謝状(その2)

KONISHIKI (タレント・元大関)

お

ふくろは、僕にとって一番大事な存在だ。そのおふくろが、今年の夏(八月五日)に

七十三歳で亡くなった。

僕が、おふくろの大反対を押し切って相撲界入りを決めたのは、親に樂をさせてあげたい一心からだ。でも、ケガが多く、ずいぶん心配をかけてしまった。相撲に勝ってもあまりニコニコしなかったおふくろも、引退を報告したときはホッとした表情をしていた。もっともつと親孝行をしたかったと思う。



死の二カ月前にKONISHIKIが撮ったお母さんの写真。死を覚悟し、本人自ら写真を撮ってほしいと希望したもの。

おふくろは、若いときの苦勞がたたつて、十年ほど前から心臓病と糖尿病をわずらい、そのうえ、人工透析も受けていた。死期を悟ったおふくろは、死の二カ月前から、周りの人とお別れをし、葬式の準備までしていた。肝っ玉かあさんらしい最期を誇りに思っている。おふくろは、僕の目の前から姿を消してしまった。けれども、いつも、どこかで見守ってくれている気がする。生きているときよりも、おふくろを身近に感じるのは僕だけだろうか。

(談)



納得して医療を受けるために



もし、心臓の専門医から、「あなたは手術の必要があります」といわれたら、あなたは どうしますか？ 専門医の説明をよく聞いて、疑問な点を質して、納得してから手術を受けることが大切です。その時に、かかりつけ医の意見を聞くことも重要です。さらに十分に納得するために、「セカンドオピニオン」として、別の専門医の意見を聞く方法もあります。いずれにしても、自分の病気や治療法について、十分に納得して医療を受けるようにしましょう。

「ご不明な点は、お気軽におたずねください。」

健康交差点では、皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしています。

日本医師会「健康交差点」

〒113-8621 東京都文京区本駒込 2-28-16

Fax: 03-3946-6295

E-Mail: kousaten@po.med.or.jp

日本医師会ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.med.or.jp/kousaten/>

待合室に掲示し、患者さんにお見せください。